

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第 52 号

企画展 宮代町 60 年のあゆみ

宮代町郷土資料館では平成 27 年 7 月 18 日（土）から 10 月 25 日（日）まで企画展「宮代町 60 年のあゆみ」を開催しています。

宮代町は昭和 30 年 7 月 20 日に百間村と須賀村が合併して誕生しました。合併当初の人口は 10,744 人で世帯数は 1,887 戸でした。「宮代町」という名称は、百間村の鎮守姫宮神社の「宮」と須賀村の鎮守身代神社の「代」を合わせて名付けられました。町役場に残る行政文書によると、宮代の他、古川、宮戸、新生、笠原などの候補もあったようです。

合併当時の町役場は、字西原の百間村役場におかれましたが、昭和 35 年には字百間（中央 3 丁目）に鉄筋コンクリート 2 階建ての新庁舎が完成しました。

昭和 30 年代後半には、町民マラソン大会や文化祭、農業祭、体育祭を合わせた総合文化祭も行われました。昭和 40～50 年代には、現在も行われている町規模のイベントである町民体育祭、町民文化祭、町民まつりも始められました。

町制 25 周年にはコミュニティーセンター進修館が完成し、町制 30 周年には「宮代の歌」や「宮代音頭」が決まりました。

昭和 50 年代、学園台団地や姫宮団地が造成



初代宮代町役場



広報公民館（のちの「広報みやしろ」）
創刊号（昭和 34 年）

されると、昭和40年から60年の20年間で、人口が約2.3倍に増え、笠原小学校や前原中学校も開校しました。

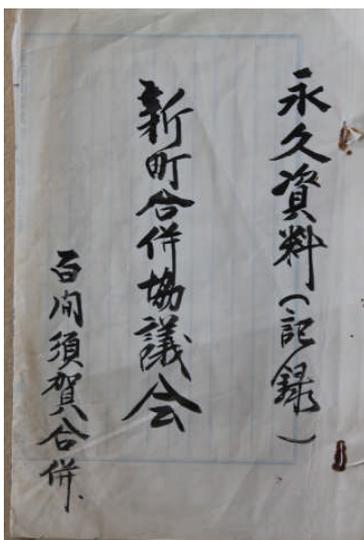
公共施設も図書館や総合体育館、郷土資料館などの生涯学習施設の他、新しい村やはらっパーク宮代、公設医療センター六花、国納保育園も整備されました。また、平成16年には多くの町民の協力のもと彩の国まごころ国体アーチェリー競技会も盛大に開催されました。

昭和56年3月、東武動物公園は開園し、杉戸駅も東武動物公園駅に改称して橋上化しました。平成13年には姫宮駅も橋上化しています。

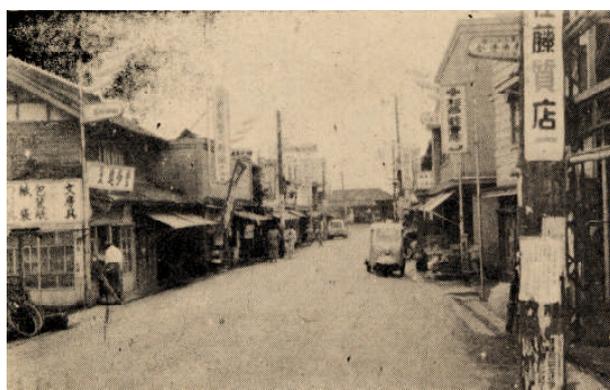
今回の展示では昭和30年の宮代町の誕生から60年間の展示がメインですが、昭和30年の合併の際の動きや、百間村や須賀村の近代の歴史についても触れていますので是非ご覧ください。



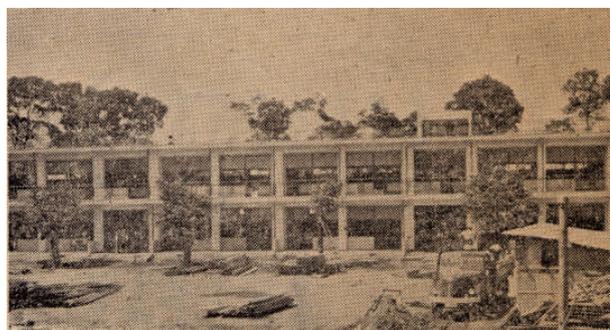
合併記念 宮代町 杯



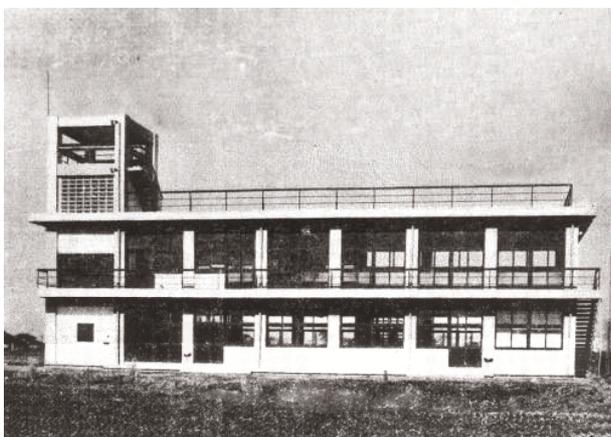
新町合併協議会 百間須賀合併



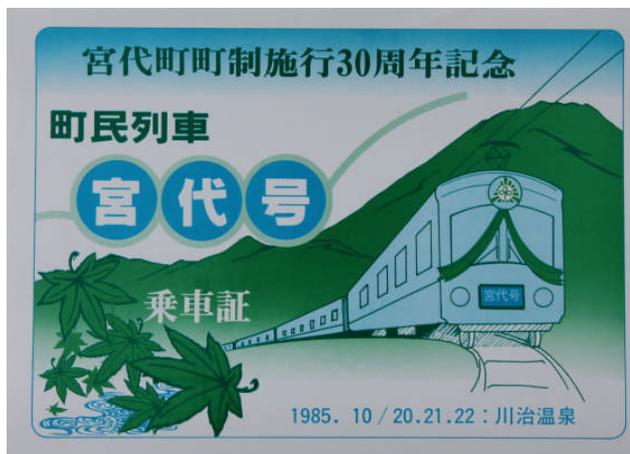
杉戸駅前通り (昭和37年)



百間小学校鉄筋コンクリート校舎 (昭和38年)



2代目宮代町役場



町制30周年記念 町民列車 宮代号

郷土資料館は、旧齋藤家住宅の屋敷林が中心となる「西原自然の森」の中にあります。これまでは、ふれ愛センターのあった側を福祉ゾーン、資料館側を歴史ゾーンとして皆様にご利用いただいていたが、本年5月末のふれ愛センター閉館とともに、「西原自然の森」全体が資料館の管理となりました。

旧歴史ゾーンにあたる敷地には、旧齋藤家住宅をはじめ旧加藤家住宅、旧進修館といった町指定文化財と縄文時代復元住居が保管・管理され、文化財が持つ存在感を通じて、宮代町の歴史をずっしりと体感することができる場所になっています。

これらのなかで、本館前に移築されている旧加藤家住宅は、役場近くの本田地区から資料館の開館にあわせて移築された「茅葺（かやぶき）」の建物で、およそ200年ほどたっているものです。



旧加藤家住宅（平成6年頃・まだ屋根が新しい感じ）

中に入ると、週3回ほどおこなっているカマドでの火燃しにより、燻ったような香りが鼻孔をくすぐります。大きな大黒柱に驚きを覚えたり、同じ大きさ（8畳間）の部屋が田の字に配置されているという、このあたりの農家の基本的な特徴を目の当たりにできたりなど、パソコンの画面や写真などからはけっして得ることのできない、多くの情報を私達に体感させてくれています。

旧加藤家の屋根は、前述したとおりに「茅葺」となっています。実は茅という植物はありません。広辞苑によると、茅とは「屋根を葺くのに用いる草本の総称。」とあり、例としてチガヤ・スゲ・ススキなどが挙げられています。インターネットで検索してみると、屋根を葺くときの材料で呼び名が違い、よく言われる「藁葺（わらぶき）」や「草葺（くさぶき）」というのは、それぞれ藁（稲や麦の茎の部分）や草を屋根の材料とするものです。草よりは藁、藁よりは茅のほうが、屋根の材料としては丈夫なものになっていきます。茅の場合、ツクヌイ（傷んだ部分の補修のこと）を

しながらの生活で30年に一度の葺き替えが必要で、藁の場合はその半分15年ほどしか持たないそうです。

屋根は竹を格子状に組んだところに、茅の束を一つずつくりつけて葺いていきます。束を踏み込みながら縄で留めていきますが、藁よりも茅のほうが踏み込んだときにしっかりと締めることができ、藁では踏み込んだでもフワフワしてしまい、締りが悪いそうです。

茅屋根は、防音性・耐熱性・保湿性・通気性などに優れています。暑い夏の日、旧加藤家に一步入った時の涼やかさは、実際に体験しないとわからないものでしょう。通気性がよいことでは、カマドなどで起こされた熱気や煙が屋根まであがり、茅と茅の隙間を通り抜けて燻すことで、茅自体が湿気を帯びたり虫が付いたりすることを防ぐことができます。結果、屋根の寿命も延ばすことができることとなります。

その反面、火そのものに弱く、延焼にはなす術がなくなってしまうという問題があります。火事を出すということは、あってはならない大変なことだったので。そのため、屋根の一番上の両端の部分に、さまざまな願いのこめられた文字が書かれました。例えば「間違い（火災）がないように」との思いから、水に関する文字（水・龍・雨など）が書かれます。また、旧加藤家住宅の場合は、草書体で「寿」と「泰」の字が書かれています。いずれも家の繁栄を願う意味の文字です。

日本の風土に由来する家屋の雰囲気、是非、体感してください。



屋根葺きの様子（平成4年・移築時）



旧加藤家住宅の屋根に見える「寿」の文字

今年の特別展は「道中日記 江戸時代の旅」です！

今年の特別展は「道中日記」という江戸時代の旅日記をメインにした展示会を開催する予定です。江戸時代の旅については、平成11年度に続き2回目の展示となります。前回の展示会は天保12年(1841)の百間源太宿の清次郎さんの旅と旅道具、そして絵馬を展示しましたが、今回の展示会では「道中日記」に記される旅のルートや観光地の絵図、絵葉書、御札などをメインに展示する予定となっています。

道中日記を復元した旅は9ルートもあり、関東近辺の房総半島や伊香保温泉、秩父観音、伊勢神宮、西国33か所、金毘羅山、羽黒山や松島巡りなどもあります。

西国33か所や伊勢神宮、金毘羅山などには農閑期の1月から3月に行くことが多いようですが、羽黒山には5月から7月に行っていました。これは山開きの関係でしょう。

このように、今回の展示会は道中日記を詳しく展示したいと考えています。



今回展示予定の道中日記

資料館日誌抄

- 3月14日 企画展「江戸時代の百間中島村
～道仏・若宮・中須～」(5月10日まで)
- 3月18日 春日部市さくら物語見学(8名)
- 3月19日 平成26年度 第3回文化財保護委員会
- 4月7日 宮代町桜・菜の花街道ウォーキング(90名)
- 4月21日 道仏上遺跡試掘調査(4月23日まで)
- 4月23日 百間小学校6年生総合学習「資料館見学」(58名)
- 5月2日 秀明英光高校「杉戸宿・鉄道調査」見学(9名)
- 5月7日 中寺遺跡試掘調査
- 5月16日 巡回展「埼玉・北埼玉の水塚」(7月12日まで)
- 5月16日 杉戸町郷土史研究会見学(8名)
- 5月24日 川端2区「宮代を知る健康ウォーキング」職員派遣
- 5月28日 川端2区「まちをアルバムにする」職員派遣
- 6月4日 百間小学校1年生「町探検」見学(12名)
- 6月16日～ 須賀中学校2年生職場体験学習(2名)
17日
- 6月24日 平成27年度 第1回文化財保護委員会
- 6月24日～ 百間中学校2年生職場体験学習(3名)
26日
- 6月30日～ 杉戸中学校2年生職場体験学習(3名)
7月1日

- 7月4日 白岡歴史を語る会見学(15名)
- 7月10日 百間小学校1年生西原自然の森校外活動(47名)
- 7月18日 企画展「宮代町60年のあゆみ」(10月25日まで)
- 7月19日 山崎子供会まが玉作り(10名)

資料館寄贈者名簿

(敬称略、順不同)

並木 勇 (民具)
松村静子 (民具)
吉岡勇一郎 (民具)

宮代町郷土資料館だより えんがわ 52号

発行日 平成27年7月20日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>